

令和7年度

営農指導員研究発表会

J Aでは、営農担当職員相互の研鑽と地域農業の振興、営農事業の充実を目的に、営農担当職員が目標管理における取り組み成果の発表を行う「営農指導員研究発表会」を毎年開いています。

今年度は1月13日に行い、各地域の営農担当職員5人が、理事や関係機関、職員など約150人の前で研究内容を発表しました。研究内容は営農各部門から選択し、スライドを使って発表。研究性と実証性、普及性、発表能力の4項目を4人の審査員が審査しました。

今回の特集では、最優秀賞を受賞した高橋恋春職員の研究内容を紹介します。

研究内容



最優秀賞

研究テーマ

「園芸品目の産地確立に向けて」

園芸販売課
高橋 恋春 職員

野菜栽培をするうえでの課題

- ▶ 活着不良
- ▶ 着果不良
- ▶ 草勢低下
- ▶ 品質低下 等...

近年、高温の影響による生育障害が多く発生している

従来の管理では栽培が困難になっている

助成により
資材導入にかかる
コスト面を削減
できる！

対策

第2次花巻農協園芸産地確立事業

目的：園芸品目の安定生産および産地としての規模拡大・持続的な発展

- 事業① 園芸施設用ビニールパイプハウス類設置事業
- 事業② 園芸施設用ハウス内施設整備事業
- 事業③ 園芸品目品質向上対策事業
(高温対策事業・防除能力増強事業)

重点園芸品目(対象品目)

- 果菜類(きゅうり、ピーマン、トマト、ミニトマト、なす)
- 葉菜類(アスパラガス、ねぎ、ほうれん草、ブロッコリー、にら、せり)
- 根菜類(ニ子さといも)
- 菌床(しいたけ)
- りんご、洋なし、ぶどう
- 切花(りんどう、小菊、トルコギキョウ、カンパニュラ)
- 鉢花(りんどう、クレマチス)

高温対策事業

収量増・品質向上を目的とした高温対策資材や機械器具の導入にかかる経費の助成

- ・対象資材：遮熱設備・換気設備・かん水設備 等
- ・助成率：導入にかかる経費の1/2以内の助成
- ・助成上限：80万円(1経営体あたり)

高温対策資材※ハウス(4間×20間)想定

資材名	概算価格
遮光幕	83,000円
遮熱幕	118,000円
遮光塗布剤	18,000円
遮熱塗布剤	41,000円
灌水設備	250,000円
外気導入装置	150,000円

実証事例

Aさん

- ・栽培品目：ミニトマト
- ・栽培歴：4年
- ・面積：ハウス20a
- ・労働力：2人+季節雇用

令和6年度の課題

- ・高温の影響により
- ・花落ち
- ・着果不良
- ・着色不良

導入資材



- ・外気導入資材
ハウス側面から外気を効率的に取り込むことで、ハウス内温度・湿度の偏りを軽減し、カビを要因とする病気の発生が大幅に減少
- ・遮熱資材
日光を反射しながら内部の明るさを確保することで、ハウス内の急激な温度上昇を抑制し、花落ち・着果不良を軽減

出荷数量合計比較

R6 6,671kg
R7 9,908kg

前年対比 149%

反収比較(10aあたり)

R6 3,335kg
R7 4,954kg

トマト専門部平均反収
2,829kg(R7)

Bさん

- ・栽培品目：ピーマン
- ・栽培歴：3年
- ・面積：ハウス7.5a
露地10a
- ・労働力：2人

令和6年度の課題

- ・露地作型のみだったため
- ・天候に左右されやすい
- ・草勢低下や収量の不安定さがあった

導入資材



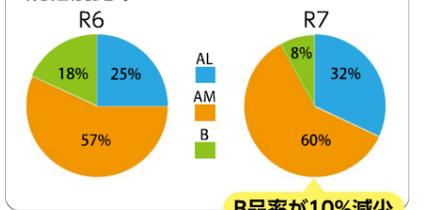
直射日光を反射しハウス内の急激な温度上昇を抑制することで、草勢維持が可能になり作物へのストレスが軽減され、計画的な作業や安定した生産につなげることができた。

出荷数量合計比較

R6 6,568kg
R7 7,797kg

前年対比 119%

規格別比率(8月抜粋)



B品率が10%減少

まとめ

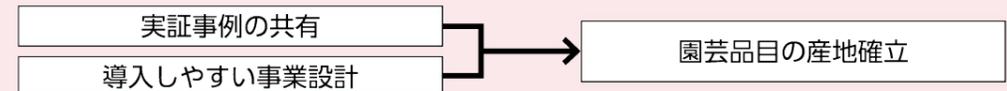
高温対策資材の導入により

高温期における作物へのストレスが軽減され、生育の安定や収量・品質向上の効果が見られた

さらに取り組みを発展させるには

- ① 複数事例での検証による汎用性の向上
作型や圃場条件の異なる生産者にも展開し、汎用性を高める。
- ② 資材の使い分けや活用方法の整理
使用時期や組み合わせ、作物や作型ごとにより効果的な活用方法を見つける。

高温対策資材は、高温環境下における栽培管理方法の有効な選択肢の1つになると考えられる。



受賞コメント



この度は最優秀賞という評価をいただき、大変光栄に思っております。本研究は、生産者の皆様や関係機関のご協力があって進めることができたものであり、受賞は多くの方の支えによるものだと感じています。園芸品目の産地確立に向けて今回の研究で得られた成果を日々の業務に生かしていきたいと思っております。



研究テーマ

優秀賞

「ALL遠野で行く!!!「遠野牛」project」

畜産センター 佐々木凛 職員

「遠野牛」の産地維持について地域の特色を生かした取り組みを研究しました。産地維持には飼育管理技術の高位平準化や優良牛群の構築が必要不可欠だと考えています。今後は取り組みをさらに強化し、遠野らしさを再構築した肥育体系の確立を目指していきます。

続報



高橋恋春職員は、1月29日に盛岡市で行われた「令和7年度」JA岩手県営農指導員研究発表会に出場し見事、最優秀賞に輝きました。岩手県の代表として、今年11月に開催予定の「JA営農指導実践 北海道・東北ブロック大会」に出場します。